

(仮称)交野市立交野みらい学園 施設一体型小中一貫校

基本設計書

2021年 2月 交野市教育委員会
(概要版)



鳥瞰イメージ



南側外観イメージ



西側外観イメージ



北側外観イメージ

基本計画における「魅力ある学校づくりの基本方針」に基づき、基本設計では「つながる」を軸とした、3つの設計コンセプトを定めました。

基本計画における考え方

■基本計画におけるメインコンセプト

情（こころ）の森、英知の庭、探求の学び舎
～グローバルコミュニケーションスクール～

- ・生きる力を養い、多様性とんだ人材の育成を目指す「教育百年の森」交野市の第一中学校区に設置する初めて整備される施設一体型小中一貫校となります。
- ・交野市教育大綱や交野市学校教育ビジョンを踏まえて、児童生徒の「情（こころ）」、交野の豊かな自然や情を育む「森」、グローバルコミュニケーション能力を培う「英知」、真理を「探究」する姿勢の4つのテーマを基軸に、施設一体型小中一貫校という新しい学校で伝統を紡いでいけるような環境づくりをすすめる方針を定めています。

■基本計画におけるサブコンセプト

子どもたちの学びと創造力を豊かにし、
人が集い、人や自然など様々なつながりがうまれる学校

- ・メインコンセプトの方針で育っていく子どもたちを、地域の人たちが見守り一緒に育てていくことで、子どもたちの「学び」の創造性を高め、人が「集い」、様々な「つながり」がうまれます。
- ・それらが地域の魅力や誇りとなっていくことを「めざすべき学校像」と定め、「学び」、「集い」、「つながり」という3つのサブコンセプトを定めています。

■魅力ある学校づくりの基本方針

「メインコンセプト」と「めざすべき学校像」、そして「3つのサブコンセプト」を踏まえて、魅力ある学校づくりの基本方針を以下のように設定しています。

1. 質が高く、自然と「つながる」、
安心・安全・快適な学びができる学校づくり

- 1) 質が高く、機能的な学習環境を備えた学び舎
- 2) 自然・歴史・文化に親しみ、郷土愛を育む学び舎
- 3) 情（こころ）を育む安全・安心・快適な学び舎

2. 学校と地域が安全・安心な環境の中で集い交流することで、
人が「つながる」魅力が高まる学校づくり

- 1) 子どもたちと地域の人たちが集い、交流できる学び舎
- 2) だれもが安全・安心に集うことができるシンボルとなる学び舎

3. 学校と地域が「つながる」、
地域ぐるみで子どもたちの学びを支える学校づくり

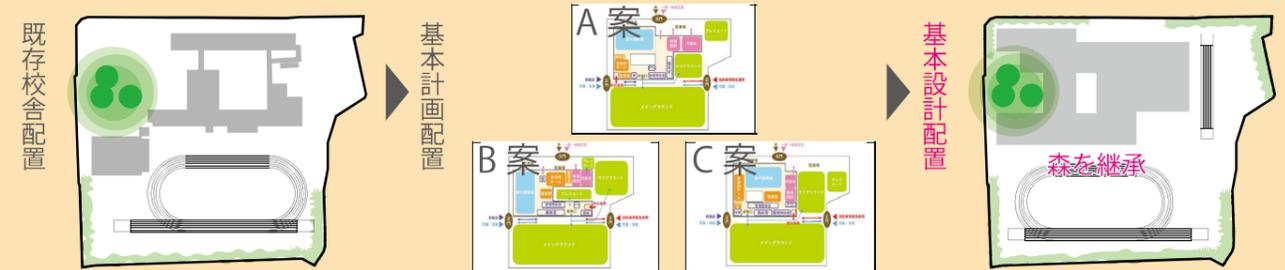
- 1) 子どもたちと地域がつながる探究の場となる学び舎
- 2) 地域の人たちが見守り、一緒に育てていく学び舎

基本設計における考え方

1

自然・人・地域・歴史と「つながる」：
地域に愛されるまなびの森を中心とした全体計画

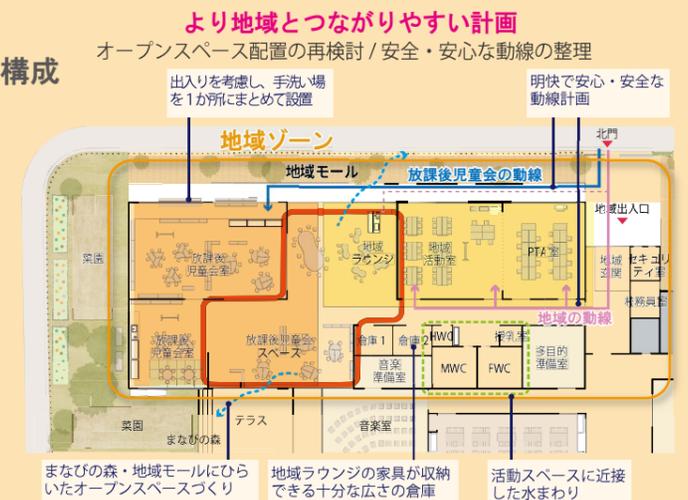
- ・基本計画の検討方針であった「サブグラウンドを広く確保できるように屋内運動場を北西部分に配置する」、「地域開放ゾーンとのセキュリティゾーンを明確にする」等も考慮しつつ、「まなびの森を学校全体で囲むように残す」とともに、学校敷地周辺部も植栽を再整備することで、既存の樹木も最大限に活用し、交野の自然と歴史を継承しながら、地域に愛される緑豊かな学習環境の創出を目指します。



2

地域と「つながる」：
安全・安心な環境で集い交流する明快な施設構成

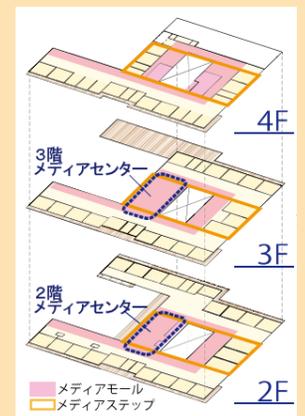
- ・「地域ラウンジ」や「地域モール」は、セキュリティに十分に配慮しながら、安全・安心な環境で地域とつながるわかりやすいゾーニング計画とします。
- ・地域に開放する範囲（地域ゾーン）は、オープンスペース（地域ラウンジ・放課後児童会スペース）を「まなびの森」や「地域モール」に隣接させることで、イベントや普段の活動を地域に開き、より学校と地域がつながりやすい計画とします。



3

学内みんなが「つながる」：
交流と学びの場「メディアステップ」を中心とした学習環境づくり

- ・学校の中心部に、メディアセンター（コンピュータ室・図書館・視聴覚室）、多目的ホール（サブアリーナ・ランチルーム・武道場）、特別教室、中庭などを立体的かつ開放的に構成します。
- ・あらゆる場所にひろがり、つながる、多様な学び場となるように、教室・多目的スペース・メディアモール・メディアステップ・屋外のまなびの森などを、連続的、段階的に配置します。
- ・特別教室周りにはメディアスペースを設置したり、学年ラウンジ内には学習エリアや学年学習スペース、教師スペースを設置するなど、「どこでも」、「いつでも」、「自由に」学べ、知的好奇心と学習意欲を触発するような学習環境づくりに配慮します。
- ・現役の教職員や令和7年の開校時に最高学年となる交野小学校と長宝寺小学校の4年生へのヒアリング、また第一中学校区的全児童生徒を対象に実施した「新しい学校をつくるためのアンケート」の回答などの意見やアイデア、地域協議会や説明会などの意見交換を踏まえ、明るい廊下、綺麗なトイレ、オープンで児童生徒が利用しやすい図書館などを計画します。



配置計画

■(仮称) 交野みらいストリートを骨格とする明快なゾーニング

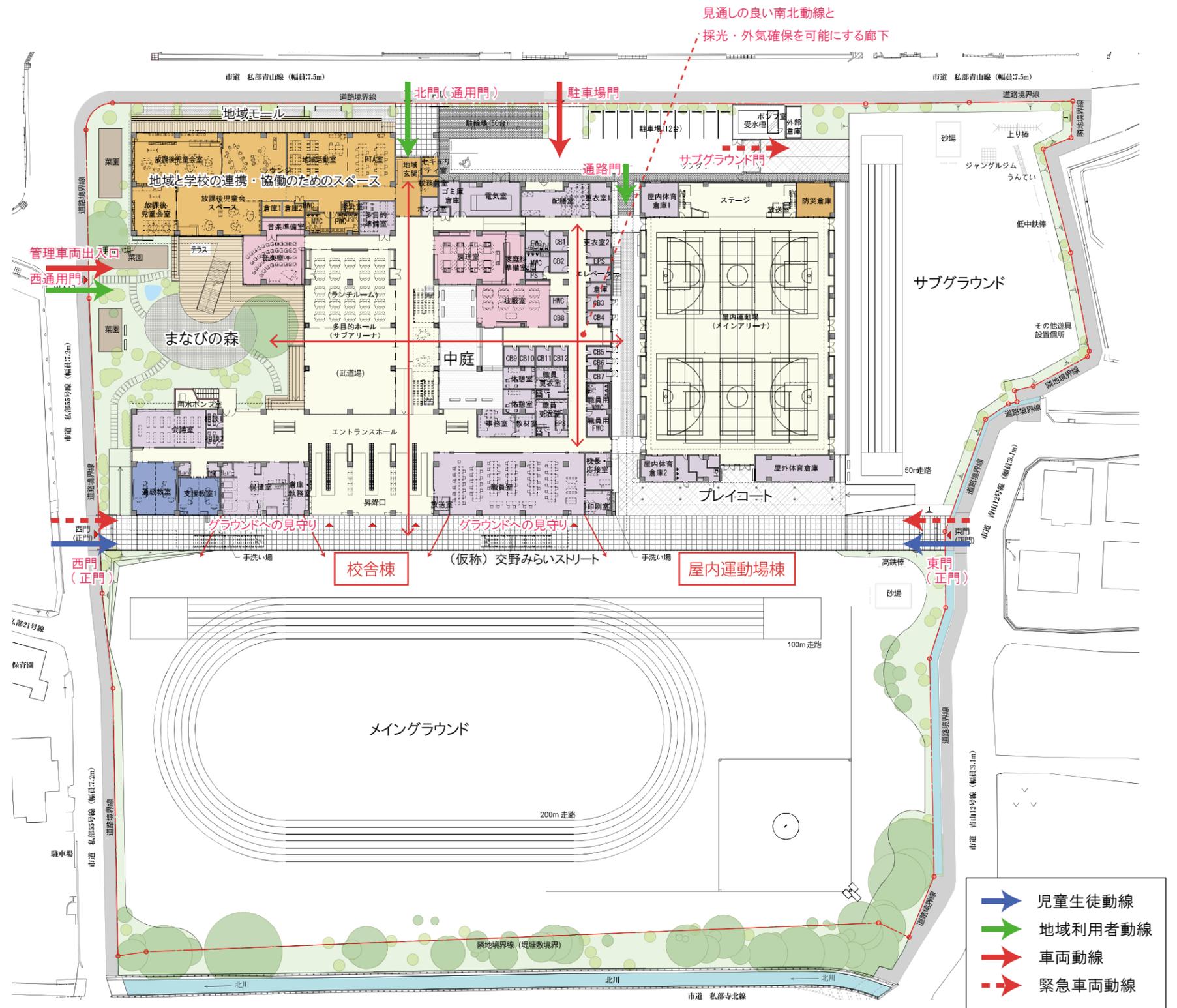
児童生徒の通学利便性及び災害時の避難に配慮し、正門は東側と西側の2か所設けます。東側正門及び西側正門から児童生徒が安全にわかりやすく校舎にアクセスできる動線として(仮称)「交野みらいストリート」を整備します。

(仮称)「交野みらいストリート」を挟んで南側にメイングラウンド、北側に配置する校舎の東側に屋内運動場、サブグラウンド、屋内運動場の南側にプレイコートを計画します。メイングラウンド、サブグラウンド、プレイコートは身体の大きさや体力に応じて使い分けるとともに、体育や様々な教育活動における異学年交流などの使い方も可能とする形状とします。また、プレイコートには大きな庇をかけることで、野外での活動の幅を広げます。

メンテナンス車両や給食配送車は駐車場門からの出入りを計画します。給食配送車両は配膳室北側の駐車場に停車し、配膳室北側に設けたプラットフォームから給食用コンテナなどを直接搬入搬出できる計画とします。緊急車両は東門から西門まで(仮称)「交野みらいストリート」を通り抜けることができるようにし、北側駐車場からサブグラウンドに進入が可能な動線も確保します。

敷地北西側には地域と学校の連携・協働のためのスペースを配置し、道路側には中木の並木と日常的に立ち寄りやすいデッキや花壇等を設置した地域モジュールを配置し、これから形成されていくコミュニティスクールにつながる緑豊かな空間をつくります。

「まなびの森」や「中庭」などの半屋外・屋外スペースには、豊かな緑の景観をつくり、通風や採光を導くことで、快適な学習環境を実現します。



各階平面計画

■メディアステップを中心とした探求の学び舎

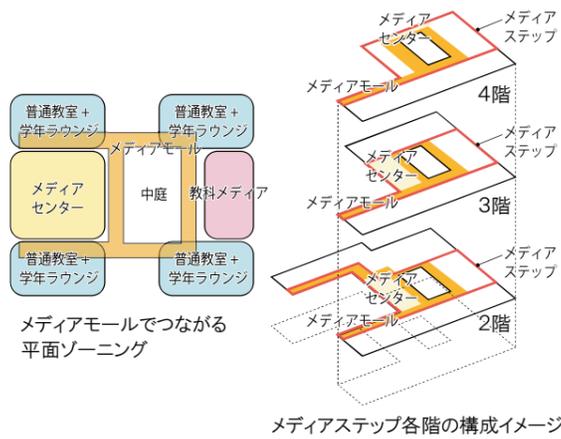
1) 校舎全体のゾーニング

教室・メディアセンター・メディアモール・屋外のまなびの森など、校舎全体に学びを刺激するような教材・教具や環境が展開された空間構成とし、交野市小中一貫教育指針を踏まえ、多様な学びの場を連続的、段階的に配置し、「どこでも」「いつでも」「自由に」学べ、知的的好奇心と学習意欲を触発する計画とします。

2) メディアセンターを中心とした平面配置

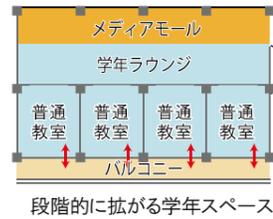
メディアセンターを中心にメディアモールを配置します。メディアモールは児童生徒の動線であるとともに、学習・特別活動・生活・交流などの多機能な場とします。特別教室の前には情報発信と教材・作品の掲示を行う教科メディアを設置します。普通教室は学年ラウンジ、メディアモールと段階的につながる計画とします。普通教室から広がる学年ラウンジは多様な集団編成、学習形態、教科学習を行うことが可能な設えとします。この各階の多機能な活動の場を学校の中心部に配置し、中庭、テラス、階段、吹抜を介して学校全体をつなげる立体的に積層した構成全体をメディアステップとして学び舎の中心に位置づけます。

校舎全体の多様な学びの場イメージ



3) 児童生徒の活動の場を広げる屋外空間

各教室には出入りが可能なバルコニーを設けることで採光と通風を確保するとともに屋外活動の場とします。中庭とまなびの森に面してテラスを設けることで、メディアモールやメディアセンターと一体的に利用できる屋外空間とします。さらに、バルコニーによって火災時に上階への延焼を防ぐことや、緊急時に児童生徒が避難しやすくなること、消防隊の活動に寄与することなどが可能な設えとします。

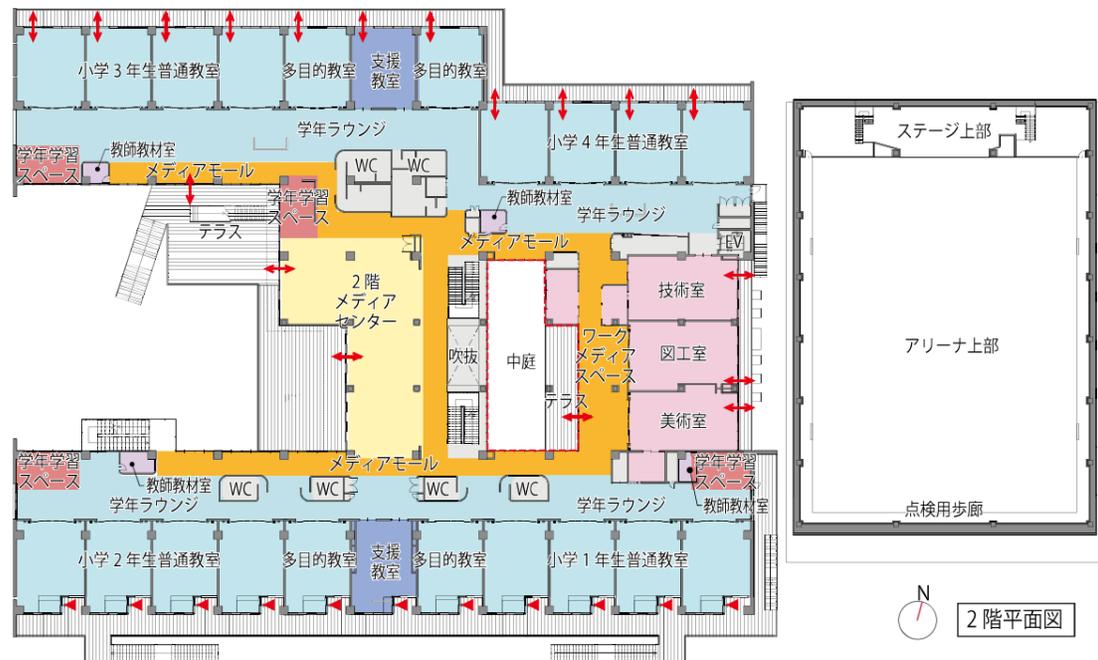
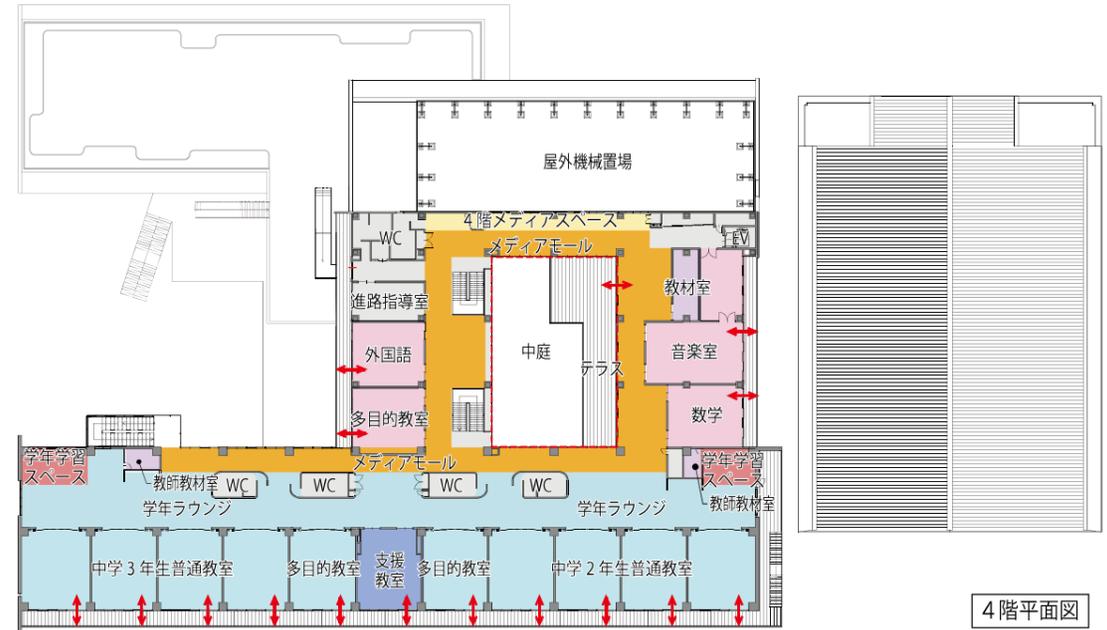


■成長段階に応じたフロア構成

2階と3階の2層にわたってコンピュータ教室・図書室・視聴覚室の機能を兼ねたメディアセンターを配置するとともに、4階には自主学習のできるメディアスペースを配置し、成長段階・学年に応じた設備とします。また、4-3-2の学年段階の区切りに配慮し、小学1～4年生、小学5・6年生と中学1年生、中学2・3年生を同一フロアとなるよう計画します。



メディアステップ各階の断面構成イメージ



普通教室

■低学年普通教室まわり

行動範囲が狭く、教室まわりで多くの活動を行うので、普通教室まわりに児童の居場所となる空間や作業場所を設けます。

- ・他学年との体格差に配慮して昇降口をそれぞれの教室ごとに設けます。
- ・教室内に流し台を設けることで、教師による手洗い指導を行いやすくします。
- ・学年ラウンジ側の普通教室の間仕切り壁を全面開放することで教室から広がって使用できる計画とします。
- ・様々な教育活動ができるよう、家具は少なめに、机やいすとして使えるスツール等を設ける計画とします。また、小さく囲われた静かな居場所となるデン・ロフトを設けます。
- ・メディアセンターとつながる動線上のメディアモールには、図書とふれあうことのできる場所を計画、学びの連続する空間を設えます。



グラウンド側バルコニー出入口 イメージ



学年ラウンジ イメージ

■低・中学年普通教室まわり

行動範囲が徐々に広くなり、創作活動に加え、調べ学習、グループ学習などが増える低中学年の普通教室まわりには幅広い学習活動が展開でき、ひろがり、つながる学習空間を学年ラウンジに計画します。

- ・学年ラウンジには調べ学習を行うことのできる書架、グループ学習で利用する移動式ホワイトボードや作業のしやすい大きめの机、いすを設置します。
- ・中学年に進むにつれて増えていく専科科目についても人文系・理数系といった専科のスペースを設置し、教科に対する好奇心を刺激する空間を計画します。
- ・学年ラウンジには図書や授業成果物の展示ができる場所をつくります。



学年ラウンジ イメージ

■高学年普通教室まわり

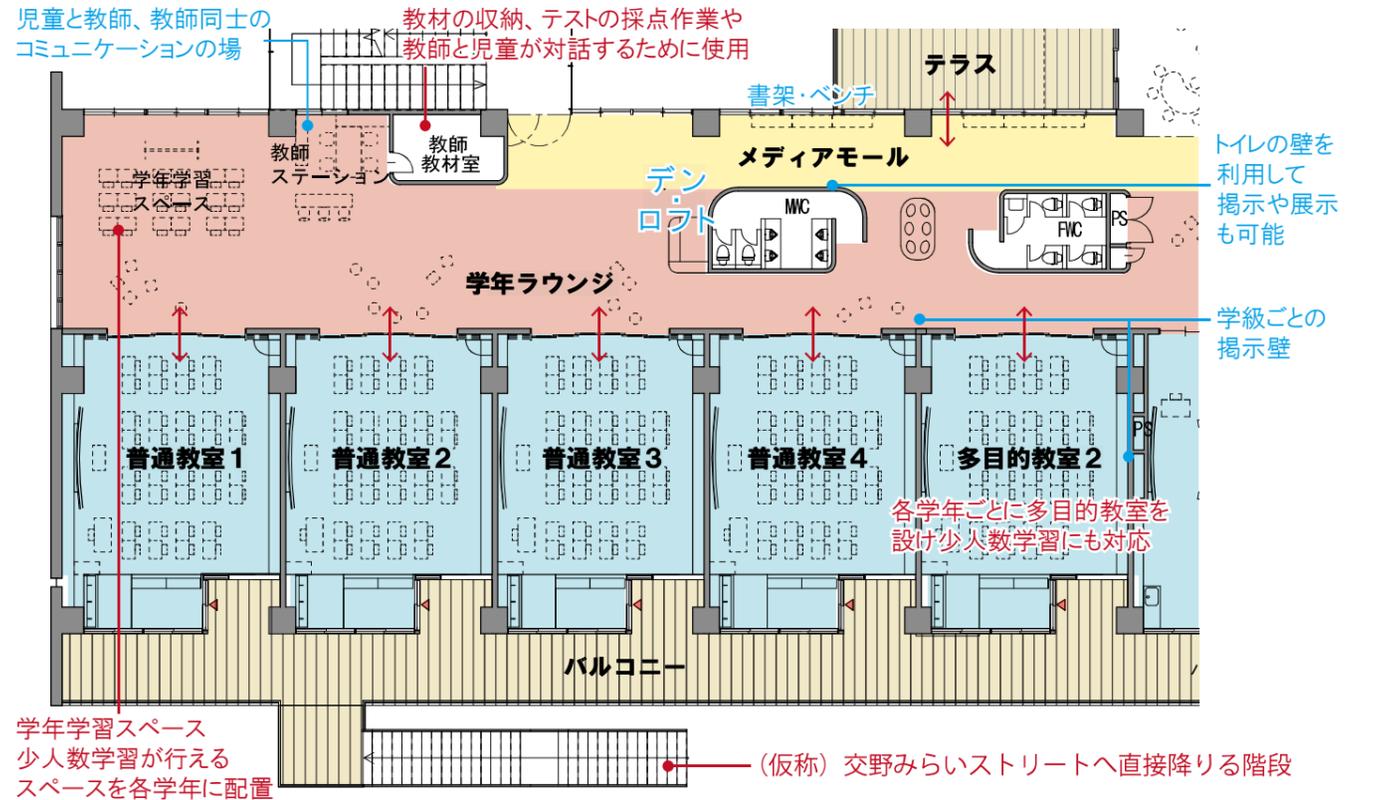
各教科により特化した学習を意識し、メディアモールにサイエンスゾーン等のような教科のゾーンを設けた教室まわりとし、多目的教室を利用することで、授業方式についても弾力的に運用できる計画とします。また、学年ラウンジのエリア分けを行うことによって生徒がそれぞれ学習への取り組み方を選べる空間づくりを行います。

- ・学年ラウンジにも調べ学習が行える書架、グループ学習で利用する移動式ホワイトボードや大きめの机、いす等に加えて学習成果等を発表のすることのできるスペースを計画します。
- ・メディアモールには図書や展示コーナーに加えて自習スペースやパソコン学習が行える環境とします。
- ・それぞれの教科に特化したゾーンには関連する書籍や教材の閲覧・展示スペースを設ける計画とします。

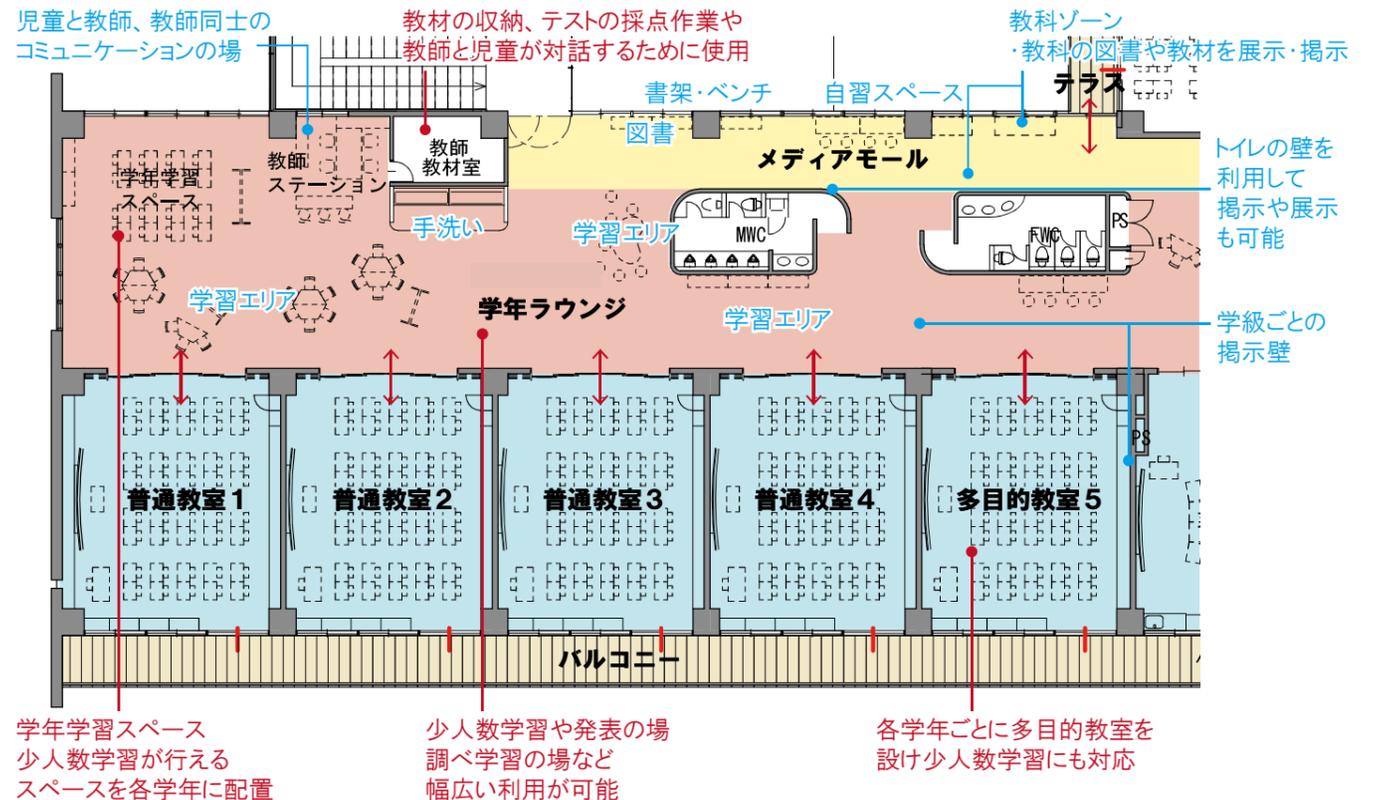


学年ラウンジ イメージ

■低学年普通教室まわり



■高学年普通教室まわり



2階・3階メディアセンター

メディアセンター

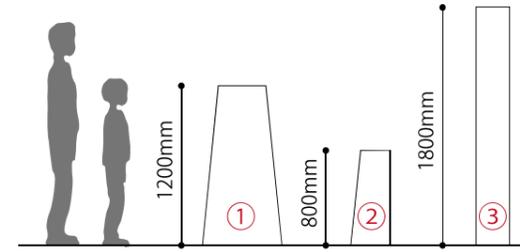
- ・校舎の中心に位置するメディアセンターは児童生徒が日常的に立ち寄れる学びの場として整備します。
- ・メディアモールからつながるように書架を配置し、まなびの森とテラス、中庭、中庭を挟んで特別教室ゾーンへの視線の抜けをつくることで、学びの連続する空間として計画します。
- ・書架の高さは1200mm程度とすることで、児童生徒にとって利用しやすく、大人を目線で見通しが利くようにします。
- ・書架の高さを抑えることで、広がりある学びの場を計画します。
- ・壁面や本棚の上部には本の紹介や掲示を行い、児童生徒が興味を持つきっかけをつくります。

■2階メディアセンター

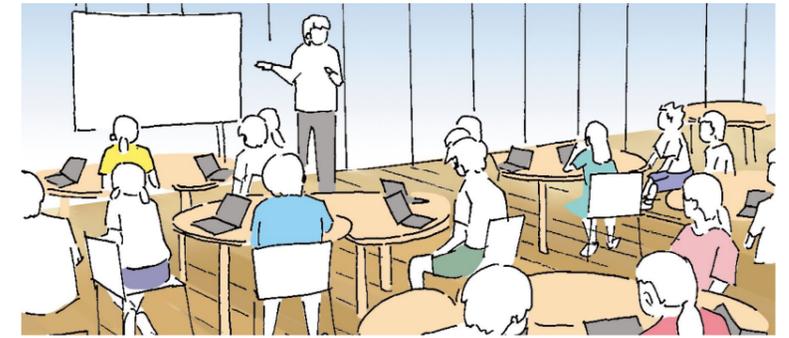
- ・主に低学年の活動を想定して、ドーナツ型の書架や丸形イス、ベンチなど様々な場所や姿勢でメディアに親しめる場を設ける計画とします。
- ・2クラスが同時に授業を行えるように、2クラス分の机とイスを配置します。



2階メディアセンター イメージ



書架高さ 参考イメージ



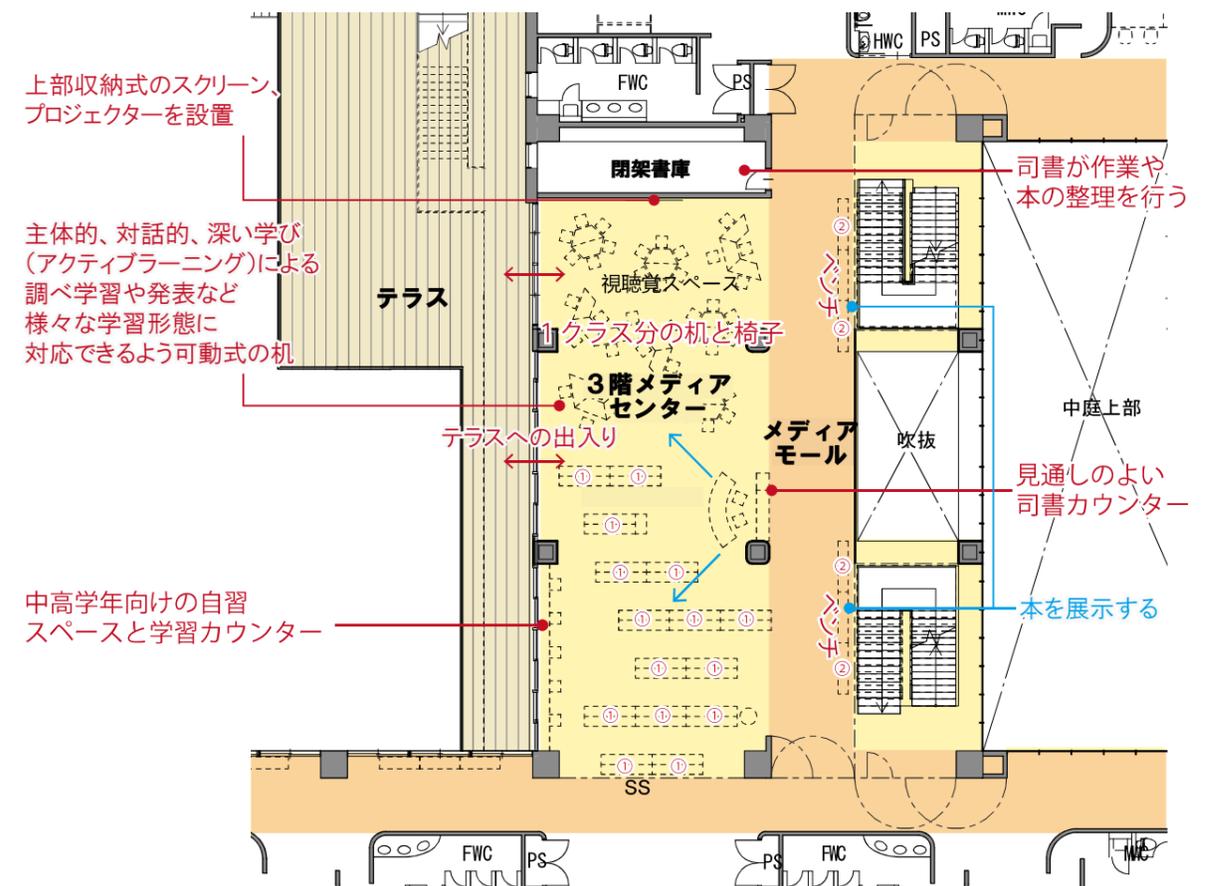
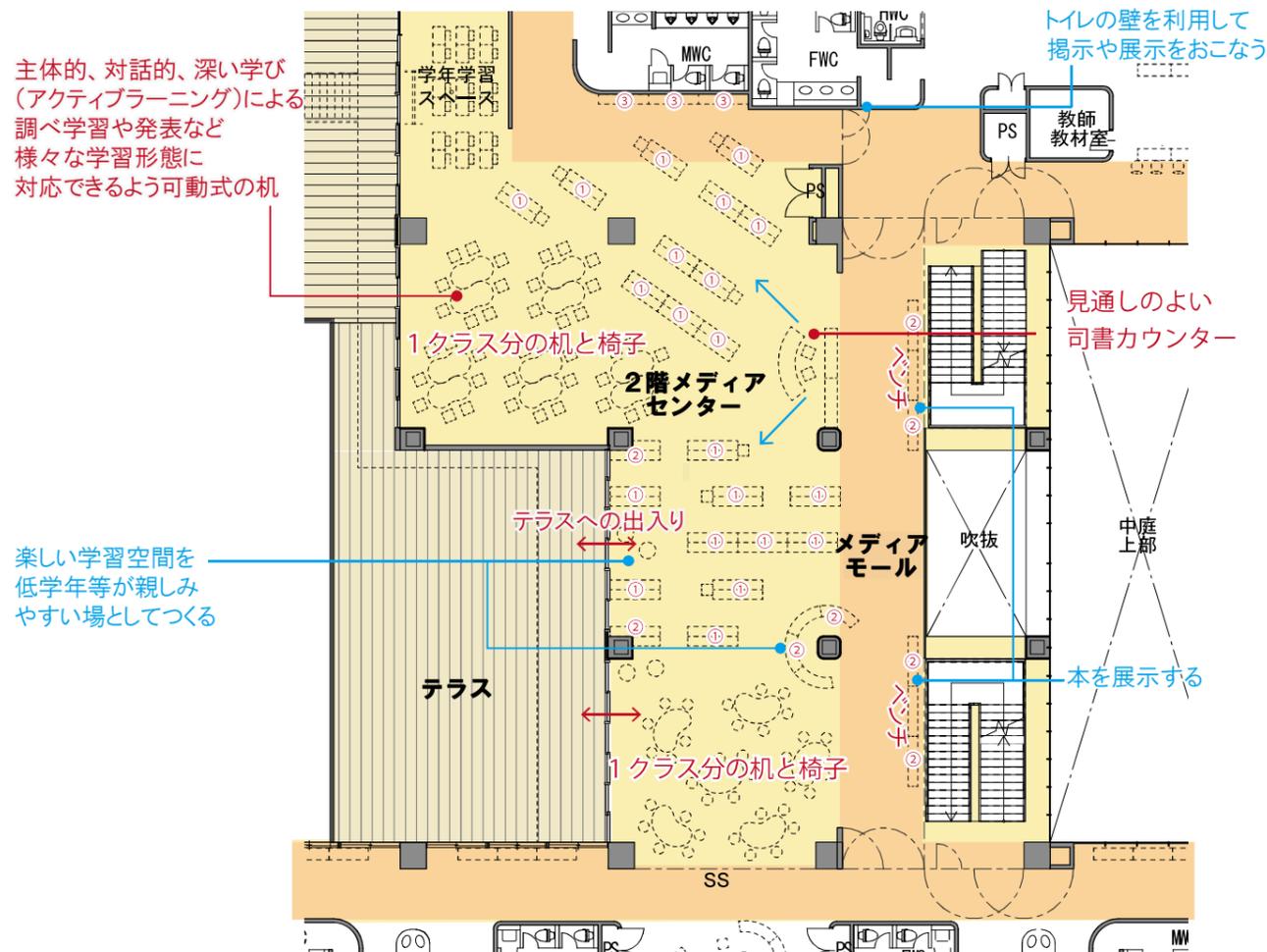
視聴覚スペース イメージ

■3階メディアセンター

- ・主に中高学年の活動を想定して、自習スペースやグループ学習スペース、書架のエリア分けを行います。
- ・視聴覚スペースには上部収納式のスクリーンとプロジェクターを設置、パソコンとタブレットを使った授業が可能な設備とします。



3階メディアセンター イメージ



■まなびの森

1) 学びの場とする仕掛け

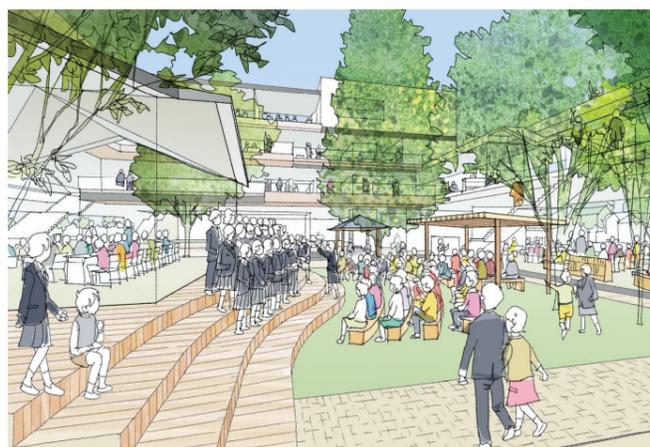
- ・児童生徒が校舎内外につながり、広がって教育活動ができる、回遊性のある計画とします。
- ・中心部分は平坦な緑化ブロックとすることで、様々な教育活動や地域交流などの活動が可能となる計画とします。
- ・児童生徒が普段から水生昆虫やメダカなどの小魚の生育環境を観察することができるピオトープを設けます。
- ・四季を感じる樹木（紅葉する、実がなる、香りがする等）を植栽し、まなびのきっかけとします。
- ・屋外水栓を設けるとともに雨水の再利用も可能とし、環境にも配慮した、菜園活動を行えるようにします。また菜園は道路に近い位置とすることで、通りかかった地域や保護者の方々が児童生徒の活動を眺めることも可能となる計画とします。
- ・災害時にかまどとして利用できる防災ベンチを設置し、防災機能を向上する設えとします。

2) 良好な緑化環境

- ・道路に面した樹木は低木とし、まなびの森の様子が道路からも眺めることができる計画とします。
- ・飛び石状の舗装を配置することで樹木の根への踏み固めを抑え、樹木が育成する環境を整えます。
- ・西側から管理車両が進入可能な出入口を設け、動線を確保し、まなびの森の維持管理がしやすいようにします。

■音楽室1

- ・まなびの森に面したテラスから出入りができ、まなびの森と一体的な教育空間として活用できる計画とします。
- ・1人1席の座席、ICT対応移動式白板を設置し、楽器の演奏や合唱など、授業の形態に合わせて柔軟に対応できる計画とします。
- ・天井、壁は吸音性能を持った仕上げとし、音響設備を設置するなど、音響効果の高い教育環境となる計画とします。
- ・近隣および校舎内に対して出る音に配慮し、ガラス・扉は防音、遮音性に配慮します。
- ・休日や行事の際に、地域利用が可能な計画とします。
- ・多目的ホールやまなびの森テラスにピアノを移動できるように動線を確保します。



まなびの森とつながる音楽室 イメージ

■多目的ホール（サブアリーナ・ランチルーム・武道場）

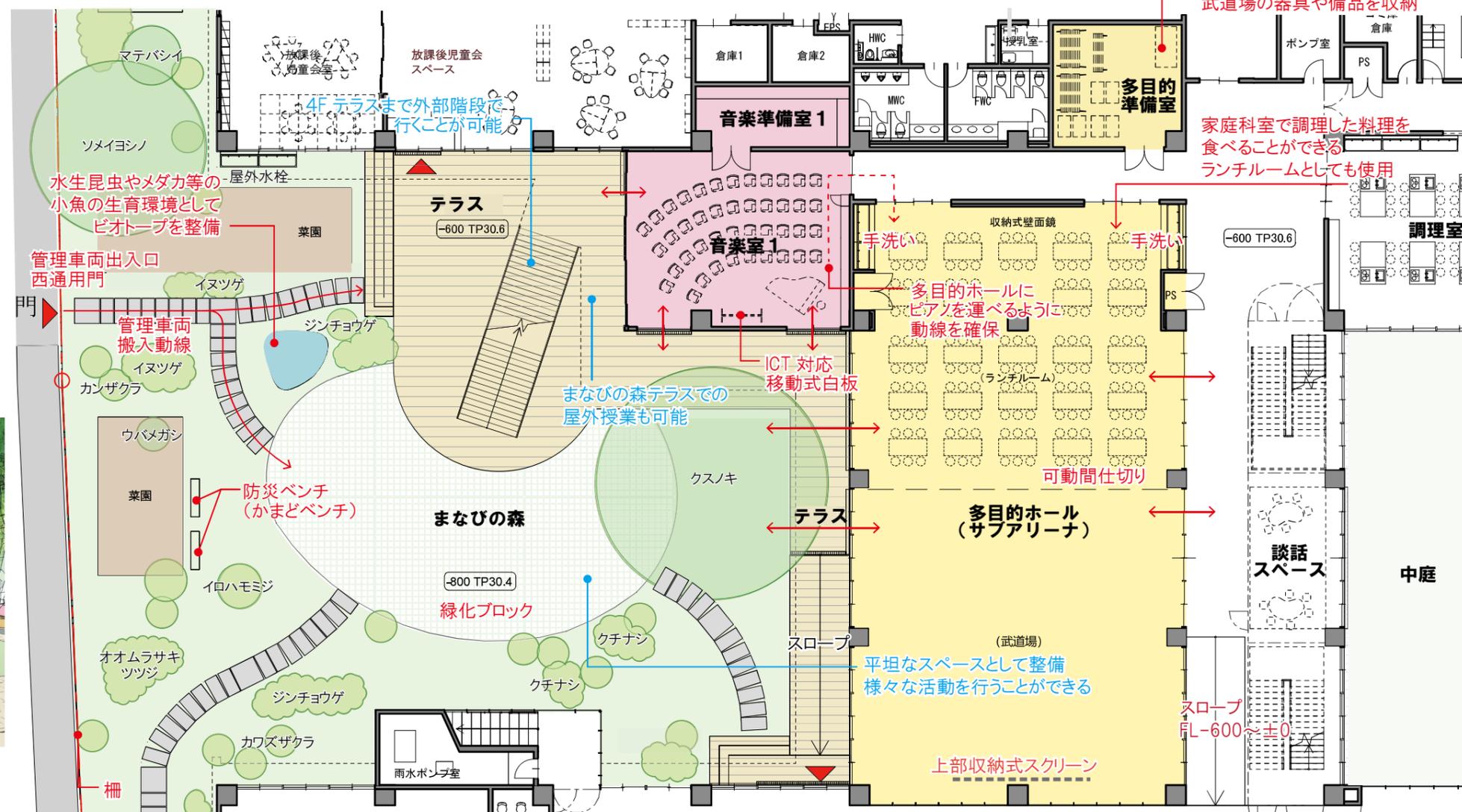
- ・まなびの森に面したテラスから出入りができ、まなびの森と一体的な教育空間として活用できる計画とします。
- ・ダンスの授業や武道での使用を考慮して収納式壁面鏡を、ランチルームなどの使用を考慮して手洗いを設置します。また、武道場としても使用できる計画とします。
- ・マット運動やダンスの授業などでサブアリーナとして使用できるよう、天井高を確保した計画とします。
- ・給食や家庭科室で調理した料理を食べることができる、ランチルームとしても使用できる計画とします。
- ・視聴覚スペースとしても利用できるよう、音響設備や上部収納式スクリーンといった投影設備を計画します。
- ・中央部に可動間仕切りを設置し、2室に分割して利用可能な計画とします。
- ・異学年交流などの様々な教育活動や地域交流などの活動が可能となる計画とします。
- ・まなびの森から多目的ホール、階段下スペース、そして中庭を挟んで校舎東側の特別教室まで視線が通ることで、つながり広がって教育活動ができる計画とします。



多目的ホール内部 イメージ



まなびの森から見た多目的ホール イメージ



1学年分の机と椅子
武道場の器具や備品を収納

家庭科室で調理した料理を
食べることができる
ランチルームとしても使用

多目的ホールに
ピアノを運べるように
動線を確保

まなびの森テラスでの
屋外授業も可能

平坦なスペースとして整備
様々な活動を行うことができる

上部収納式スクリーン

■放課後児童会室・地域活動室・PTA室（地域と学校の連携・協働のためのスペース）

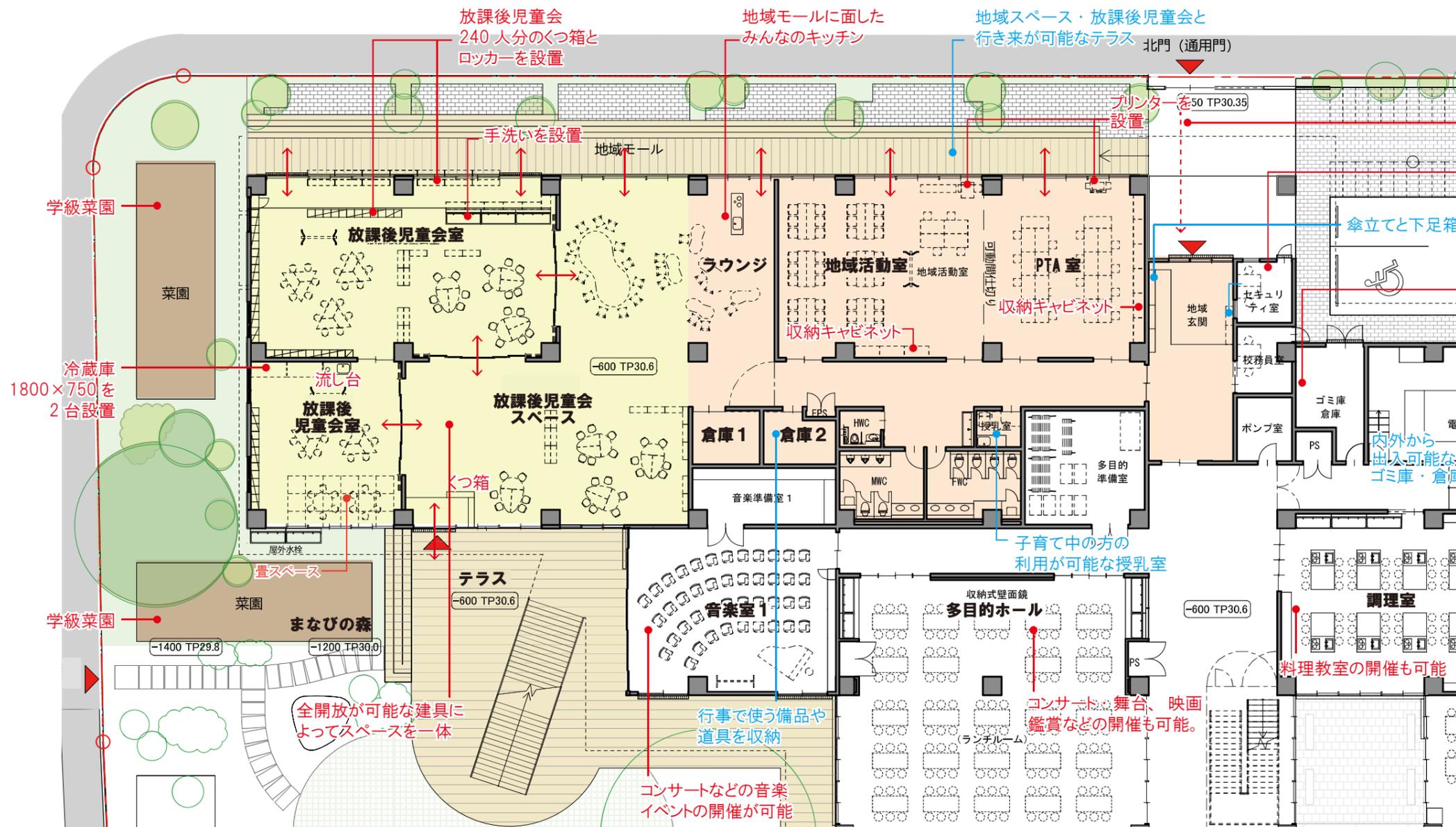
- ・学校と地域の両方にとって親しみやすい計画とします。
- ・地域の方々と子どもが交流、活動するスペースを設けることで、地域に見守られながら子どもたちが過ごす環境を整備します。
- ・地域に対して日常的な関わりをもつ地域モールをつくり、地域に親しみのある学校とします。
- ・放課後児童会室と放課後児童会スペースは合わせて6教室分程度のスペースを確保し、子どもの成長や使い方に応じた過ごし方ができるよう、エリア分けが行える柔軟な計画とした、放課後の子どもの居場所とします。
- ・まなびの森と地域モールにひらいたスペースを取ることで、ひろがり、つながる使い方が可能な計画とします。
- ・地域活動室とPTA室の間には可動間仕切を設置し、全開放して使用できるようにすることで、地域交流のイベントや地域と学校の連携・協働の活動にも対応できる計画とします。



放課後児童会スペース イメージ



ラウンジ イメージ



ゆるやかな傾斜のアプローチ

警備員や地域の人が見守る部屋

傘立てと下足箱を設置

まなびの森で利用する道具を収納



菜園 イメージ

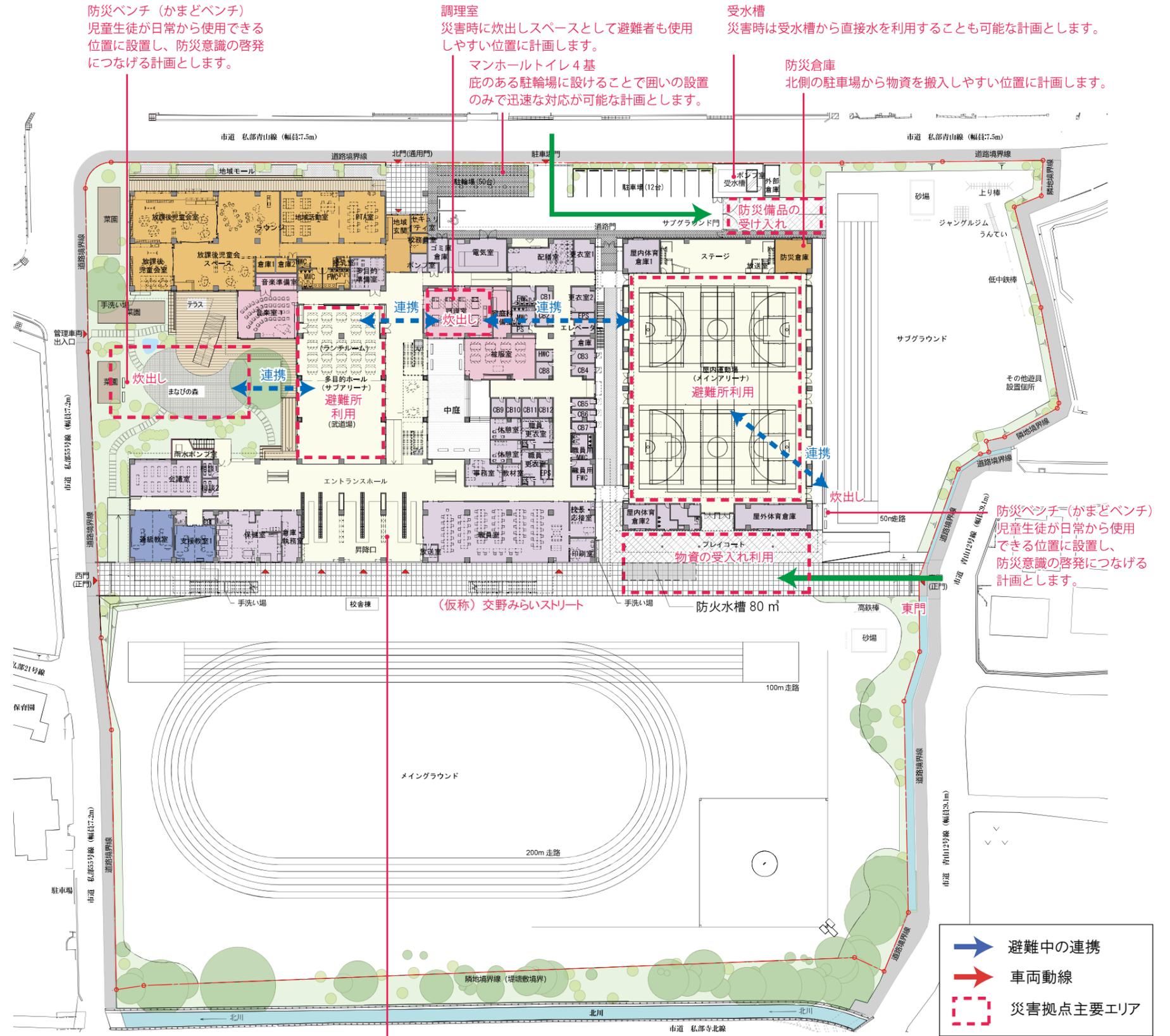


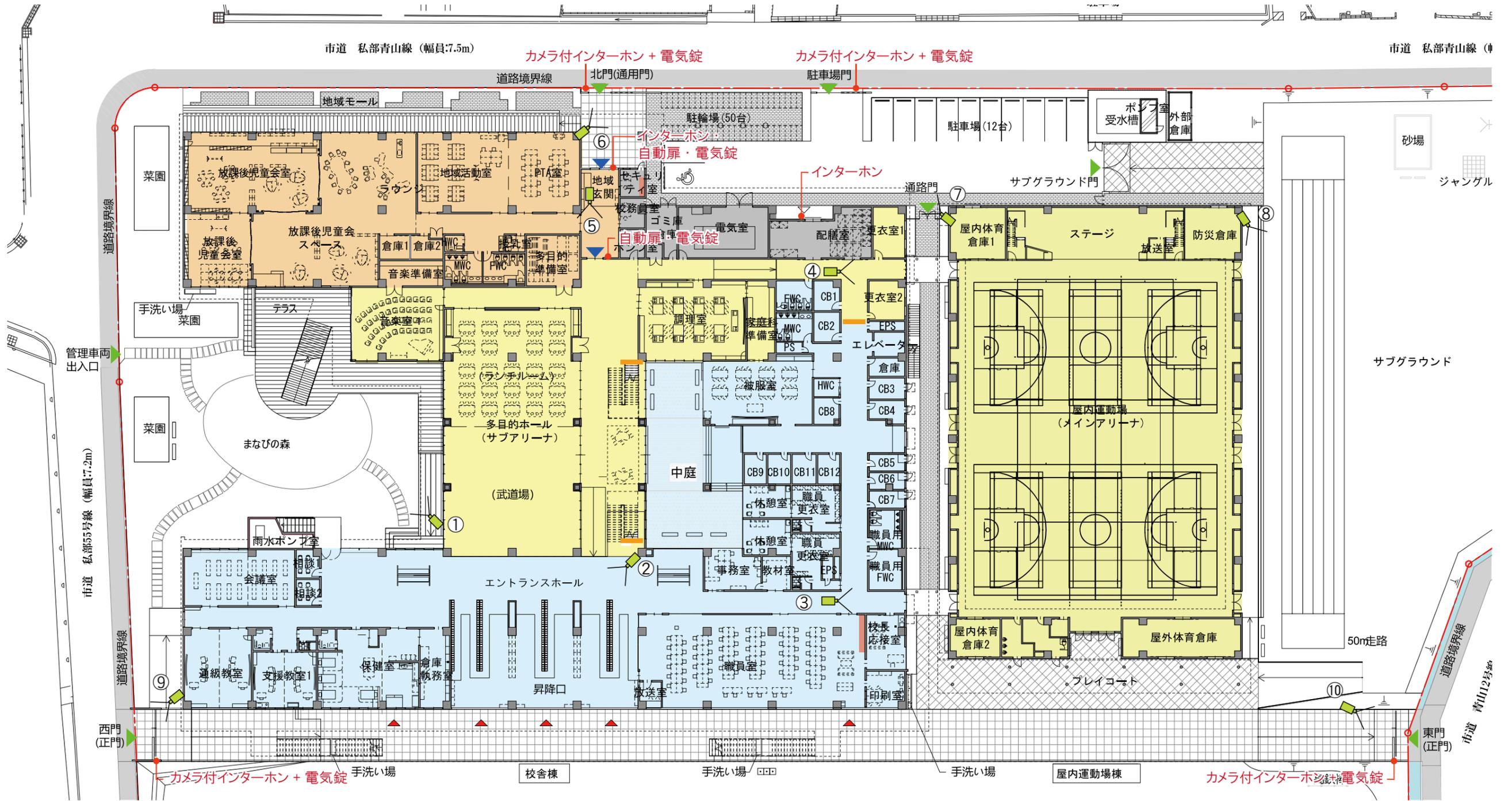
テラス イメージ

防災計画

■地域の避難活動拠点となる校舎

- 1) 屋内運動場、多目的スペース（避難スペース）
段ボールブースを設置し、避難所として活用可能な計画とします。
- 2) マンホールトイレ
災害時に利用可能なマンホールトイレを駐輪場部分にすることで、容易に屋根付きの仮設トイレの設置が可能な計画とします。
- 3) 防災ベンチ（かまどベンチ）
まなびの森やサブグラウンドには、防災ベンチ（かまどベンチ）を設置し、日常から防災意識の啓発につなげる計画とし、災害時にはスムーズな活用につなげます。
- 4) 調理室の炊き出し利用
調理室はランチルームに隣接して計画することで、ランチルームのテーブルなどを座席や作業台としても利用し、炊き出し等の連携がスムーズに行える計画とします。
- 5) 受水槽
災害時は受水槽に貯留されている分の水を直接利用することも可能な計画とします。
- 6) 太陽光発電
屋上には太陽光発電を設置することで、災害時には、避難場所となる屋内運動場（メインアリーナ）と多目的ホール（サブアリーナ）への電力供給を行います。
- 7) 蓄電池
災害時には、避難所となる屋内運動場（メインアリーナ）と多目的ホール（サブアリーナ）の照明に必要な電力を供給可能な計画とします。
通常時には、屋内運動場（メインアリーナ）の夜間利用時の照明に電力を供給をします。
- 8) 防災倉庫
北側の駐車場から物資を搬入しやすい位置に計画します。
- 9) 災害時の空調計画
避難所の空調は、屋内運動場（メインアリーナ）は外部電源盤を設置し、仮設発電機及び電源車からの外部電力から供給し、多目的ホール（サブアリーナ）の空調は自立運転型 GHP とすることで、災害時にも空調が稼働する計画とします。





- ▶ 自動扉 鍵による管理
- ▶ 門扉 鍵による管理 (常時施錠)
- 注意書き・ガイドポール等 (備品)
- 監視カメラ 10 台 (セキュリティ室・職員室で映像監視)
- 映像監視モニター設置箇所 (セキュリティ室・職員室)

※敷地外周部はフェンスを設置



詳細は交野市教育委員会ホームページでもご覧いただけます。
<https://www.city.katano.osaka.jp/soshiki/gakkoukyouiku/manabi-seibi/>

